



強い競争力の実現に、 全力で取り組んでまいります

新日本製鉄(株) 代表取締役社長

宗岡 正二

あけましておめでとうございます。年頭に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

厳しい経営環境

緩やかな回復を続けてきた日本経済は、景気刺激策の終了や急激な円高等の影響で、昨年夏以降急速に鈍化し、足踏み状態が続いています。国内の鉄鋼需要も、土木・建築部門の低迷、主要製造業ユーザーの海外生産移転など、かつての8000万トンレベルへと回復することは当面想定しづらい状況です。一方世界の鉄鋼需要は引き続き拡大が見込まれますが、円高による輸出競争力低下により、海外市場での競争は厳しさを増しています。

供給面では、海外新鋭製鉄所が次々と立ち上がり、円高による日本向け輸出競争力の向上もあり、ミドルグレードを中心とした大競争は激しさを増しています。さらに資源インフレは当面続く見込みで、高生産下でも利益を確保しにくい厳しい環境に置かれています。

製鉄事業の課題

このような環境下で私たちは、次の三つの課題に全力で取り組んでまいります。

第一は「国内製鉄事業基盤の強化」です。 まず災害やトラブルのない、お客様に評価される製品を安定的に供給できる、強い現場力を持った製造現場を目指します。安全については、今後ソフト・ハード両面から、直協一体で災害ゼロの実現を進めます。また操業・整備部門が協力して、トラブルのない安定操業に全力を尽くします。さらに強い現場力の根幹である、6S活動や製造基盤整備活動にも、地道に取り組んでいきます。そのうえで、設備を使いこなし、品質や効率を極限まで高め

ていきます。JK活動など各所のベストプラクティスの横展開や他社動向への感度も高め、安定操業と効率向上に挑戦します。また製鉄所・事業部の枠を超えて、全社ベストの最適生産体制構築に取り組んでいきます。

またイノベーションの創出によって、お客様に期待される商品開発を進めます。そのため、営業・製造部門と一体となって、お客様と連携しながら、研究開発を深めていきます。エネルギー・環境・インフラ等の成長分野に加えて、資源高騰・劣質化対応の原料技術、地球温暖化への対応等、直面する課題を技術で解決していきます。

さらに、お客様の海外展開等の需要構造の変化と、国内外における競争の激化という厳しい環境にある今こそ、お客様のニーズにあった製品をタイムリーにお届けするという営業活動を、製造現場と連携して深化させます。また海外を中心に、エネルギーや環境向け等の当社が得意とする高機能製品などの成長分野で、新商品の開発・提案を進めていきます。

変動コストの大部分を占めるようになった原燃料については、競争力ある価格レベルでの安定調達に全力で取り組みます。タイトな需給状況が継続する環境下で、権益確保を含む新規ソースの開拓、新資源利用技術への取り組み等を進めていきます。

第二は「グローバル生産・供給体制の構築」です。

既に稼働している海外プロジェクトについては、安定的な収益基盤の確立と、需要動向に応じた将来計画の策定・実行を進めていきます。また新規案件として、メキシコ・インドでの自動車用鋼板・鋼管事業、ベトナム・アフリカでの建材・インフラ分野での事業等に取り組んでいますが、お客様にいち早く製品を供給できるよう円滑な立ち上げを図っていきます。さらに新しい地域や製品分野でも、最適な形で供給できる生産体制を他社に先駆けて整備してまいります。

当社の高い技術力と海外での事業経験をもとに、中期計画で掲げた日本・アジア・環大西洋圏の世界3極体制の構築に全力で取り組んでいきます。

第三は「業務基盤の強化」です。

まず、製造実力向上活動と両輪で取り組んでいる経営ソフト改革を着実に推進していきます。現場の考えや決定がスピーディーに実行されるように、今後も、業務マネージャー／意識・風土、基幹業務ルール、組織・意思決定システム、直協マネジメント、人材配置・育成の5つの分野で、具体的な施策を進めていきます。特に、人材育成と技能伝承は喫緊の課題であり、継続的に取り組んでいきます。また製造現場のパートナーである協会の皆さんとは、課題解決のため、率直に意見を言い合える関係を強化してまいります。

また社会から信頼される会社となるため、環境規制を守ることでできる仕事の仕方を、現場実態を踏まえて再構築していきます。地球温暖化問題については、エコプロセス・エコプロダクツ・エコソリューションの3つのエコで、技術力による問題解決に努力していきます。

さらにコンプライアンスについては、「社会と共生し、社会から信頼されるグループであり続けます」という経営理念に立ち返り、一人ひとりがルールをきちんと守る仕組みづくりとチェック体制の構築に、万全を期してまいります。

製鉄以外の事業セグメントの課題

自律的な事業運営によってプレゼンス向上を図るとともに、各社の技術力等の強みを共有・結集させシナジー効果を発揮し、総合力ナンバーワン企業としてグループ全体の競争力を高めていきます。

エンジニアリング事業では、国内案件の捕捉とともに、成長が見込まれる新興国等でのインフラ投資案件などへの取り組みを強化してまいります。

都市開発事業では、事業リスク管理の徹底と、マーケットニーズを捉えた、自社の特色を活かせる案件の実行を進めていきます。

化学事業では、製鉄化学事業と機能材料事業を中核に、事業の効率性の追求を通じて、競争基盤強化と成長分野への取り組みを推進します。

新素材事業では、中核の電子産業分野、および環境・エネルギー等成長分野での、競争力強化・事業拡大と安定的な事業基盤の構築を進めます。

システムソリューション事業では、お客様対応力の強化とコスト競争力強化により、顧客基盤拡充と新事業領域の拡大に取り組めます。

終わりに

いかなる事業環境にあっても、私たちはもの造り企業としての原点を磨き、当社が目標とする世界3極体制の構築と、5000～6000万トンの生産能力を有する世界最強の鉄鋼メーカーに向け、以上の課題に取り組んでまいります。グループの総合力を遺憾なく発揮し、鉄事業を中核として社会に貢献し続けられるように、全員一丸となり全力を尽くす一年としたいと思います。

この一年が、皆様にとって健康で明るい年となりますよう祈念し、年始のご挨拶といたします。